

7/30

激しい音で 地域の安全を願う

下見のお獅子舞

大きな鐘の音と獅子頭の激しい音が、夏の下見のまちに鳴り響きます。伝統のお獅子舞が下見一区で行われました。この行事は約400年前から続いており、毎年およどの次の日に行われています。

獅子舞といっても獅子が舞うことはなく、大きな獅子頭を持ち、激しく口をかみ合わせたり、鐘を打ち鳴らし、大声を出すことで家の邪気を追い払うものです。昔は男性のみの行事でしたが、現在は子どもたちや家族も楽しみながら参加し、下見一区の約400軒の家々を回りました。



高らかに獅子頭を掲げ、激しく口をかみ合わせます

7/30

支え合って 子どもたちを笑顔に

筑紫野市「障害」児・者問題を考える会プール&バーベキュー大会

「障害」児・者の夏の思い出の一つになるように、と始まった「プール&バーベキュー大会」が19回目を迎え、家族連れやボランティアなど約350人が天拝小学校で参加しました。

参加した子どもたちは、ボランティアと一緒に小学校のプールに入って遊んだり、バーベキューを味わったり。保護者も子どもたちも交流を深め、たくさんの笑顔あふれる一日となりました。



7/26

仲間と心をひとつに

BUDDY.FC全国大会出場決定報告

BUDDY.FC(バディフットボールクラブ)が6月下旬に行われた第27回全日本少年フットサル大会福岡県大会で優勝。全国大会の切符を手にしたため、この日、選手が監督、コーチとともに藤田市長を訪問し、報告しました。

県大会では準決勝の残り時間2分から逆転勝ちするなど、諦めない気持ちで勝利を手にした選手たち。全国大会に向けて「みんなと心をひとつにまとめて頑張る」、「練習してきたことを出し切る」と抱負を語るその表情からは大きな自信が感じられました。



7/27

重圧の中で勝利を手にする

レスリング全国大会優勝報告

二日市東小6年生の尾西 桜さんが7月23日に行われた第34回全国少年少女レスリング選手権大会で優勝し、藤田市長に報告しました。

2年生のときから続く連覇を「5」とし、「嬉しいというよりほっとした」と語る尾西さん。

4月に行われた大会でも優勝し、6年生になって2冠。残るは9月の全日本女子オープンレスリング選手権大会、来年3月の少年少女選抜レスリング選手権大会。小学生最後の年、全国4冠を狙います。



優勝者のみがもらえる「シャツ」には「チャンピオン」の文字

ちくしのクリップ

8/5

情景が浮かぶ巧みな話術で観客を魅了

11回目となるちくしの寄席が、大入り満員の生涯学習センターさんあいホールで開催されました。

9月に真打ちに昇進し、桂三木助を襲名予定の桂三木男さんが、会場を盛り上げた後に、立川生志師匠が登場。まくらでは、今でも帰ってくると必ず食べるという湯町の「福龍」のちゃんぽんを、子どもの頃にお小遣いで食べたエピソードを詳細に再現し会場は笑いの渦に包まれます。本題では「お菊の皿」の後に、武士の人情噺(ばなし)「柳田格之進」を披露。笑いと言張りを織り交ぜ、観客は聞き



演目「時そば」を披露した桂三木男さん

第十一回ちくしの寄席 立川生志“ふるさと応援”落語会

入っていました。

また、今回、筑紫野経済同友会が市内中学校・高校の生徒45人を招待しました。演劇部に所属する生徒さんは「笑いだけではなくてシリアスな話もあり、感動しました。情景が浮かんできて、演技の勉強にもなりました」と感想を話していました。



筑紫野市ふるさと親善大使の立川生志師匠

8/6

本当の平和の実現を目指して、行動していく

二日市中学校平和劇が文化会館で開催され、今年も多くの人が来場しました。今年のテーマは「私は、ただ…～ヒロシマ・ナガサキ・フクシマ・ミナマタからの声～」。

原子力発電所事故の影響で福島から転校してきた友達が偏見により孤立してしまう中、友達との関わり方について迷う心を描きました。また広島・長崎の被爆者、水俣病の患者が受けた差別についての調査報告などから、差別や偏見をもってしまう人の心の弱い部分に負けずに



現地調査報告「事実を正しく知ることが差別をなくしていく」

二日市中学校2017年度平和劇

よりよい社会をつかっていこう、と表現しました。

劇の後、平和集会実行委員長の砥綿 真子さんから「誰もが明日に希望をもち、笑顔で暮らしていける社会が真の平和と考え、行動していく」と平和宣言の発表がありました。今回の劇は、実行委員を希望した124人の生徒の皆さんが出演のほか、衣装や音響、合唱、調査報告など、力を合わせて作り上げました。上演後には来場者と実行委員の皆さんによる意見交換が行われ、多くの意見が出されていました。



「明日に向かって、一步踏み出そう！」